

自分たちの対話活動を振り返ろう

「これからの社会を想像し、自分の将来像や夢について考える。」題材です。

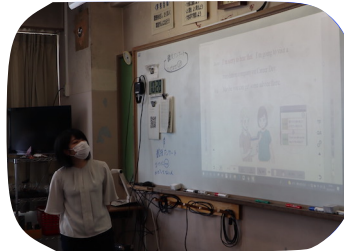
子どもたちは、「自分が体験したことや学んだことなどについて、たずねたり伝えたりする」活動をおこないました。



①授業の最初では対話活動を行なってウームアップをします。次に、職場体験について話題にしながらか自分の将来や職業について考えます。



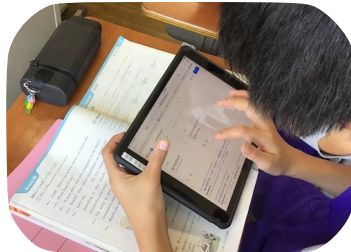
②教科書の本文の振り返りを行います。どのようなことが書かれているのかを自分なりにスクールタクトに書いたものを紹介しました。(上の図参照)



③指導者用デジタル教科書を表示しながら読みや内容の確認を行います。



④会話について先生からアドバイスも行われています。生徒たちもわからないことを積極的に質問をしています。



⑤なりたい職業を英語ではどう表現するの？iPadで調べてみればいい。僕は陶芸家になりたい。発音も聞いてみよう。進んで検索して調べていました。



⑥どんな職業に就きたいか。聞いてみよう。その様子を録画しましょう。録画をしていない人は、「相手に伝えようとしているか」「理解しようとしているか」などの視点で評価してください。

本文の内容を読んで自分の言葉で要約してみましょう

見て、未来の職業についての記事があるよ。何て書いてあるの？
将来いくつかの職業が消えるかもと書いてあるよ。本当に？私の夢は翻訳者なんだけどう？
見てみよう…おお、これには驚いたわ。
この記事によればAIによって翻訳者の仕事は無くなってしまいうらしいよ。
それは残念だな。私は翻訳会社に職場体験に行く予定なんだけどう。
多分そこでいくつかの助言をもらえると思うよ。



↑前時、学習した「本文」の要約を生徒が schoolTakt に書き込んだもの

伊那市学力向上検討委員会の先生方と

「ICT活用教育」について考える

伊那市のICT活用教育は「授業での有効活用に関する研究」に移り変わっています。「伊那市学力向上検討委員会」の先生方にもご協力をいただき、授業研究を行っています。

本年度最初は春富中学校の竹内早綾先生に英語の授業を提供していただき、学び合いました。

授業者からは次の様な反省がありました
「授業にICTを活用してスクールタクトを使っの『共有』は素晴らしいと思う。課題を授業の流れの中で作ってすぐ配布するといった手軽さがある。何より、子どもたちの反応がすごく良かった。

授業に集中している様子が伝わってきました。今日の授業では英語の会話を動画撮影したわけですが、子どもたちは学習に前向きに取り組めていた。」

学力向上検討委員の先生方からは授業について次の様な感想が聞かれました。

・対話の様子を動画撮影するという、撮られることに関する抵抗感があって顔を伏せる子もいるのではないかと思っていたが、そんなことはなかった。自己表現できている。自分を出せる安心感のあるクラスづくりがされていると感じた。

・動画を撮り直そうとする姿があった。よりいいものを見せたいと活動することによって英語の力もついていくのだと感じた。

・4人グループで、2人が対話し、1人が撮影、もう1人が評価をするように指示があった。対話の撮影を始める前に、「お互いの活

動の様子を見る」「英語で伝えることが出来たか」「相手の言うことを理解できたか」「興味を持って話が聞けたか」という評価の視点が示されたことが活動を充実させたと思う。

・英語科として動画をとることの有効性をさまざま感じた。コミュニケーションにおける自己を表出する能力。音声だけでなく映像も加わることによって、「自己表現」「内容の理解」「聞き取る力」「理解しようとする力」がついていくのだと感じた。

・子どもの振り返りの中に、「because~を使って表現できた。」というものがあつた。教科として付けたい力を子どもたちが捉えていることは素晴らしい。

・自分の職業を英語でなんとこのかわからないときにはWebで検索をして調べていた。

「この単語を調べてみよう」とする自発的な活動を許容できる授業は素晴らしいと思う。

・伊那市の小学校5年生6年生と中学校では英語の学習者用デジタル教科書を使った実証事業が行われている。ぜひ、授業の中でスクールタクトと組み合わせて有効な活用ができるように研究を行なっていただけるとありがたい。

春富中学校 英語 竹内早綾 先生の実践をもとに推進センターで編集させていただきました。

伊那市では、「学校教育情報化ビジョン2021」をもとに、iPadを導入して「ICT活用教育」を推進しています。

伝統的
学びを深めるICT活用

先進的
学びに導くICT活用

「Society5.0」時代の
学びを支える教員

個別最適な学び・対話的学び
創造性を育む学びの実現